

門徒推進員という生き方【理念】

今般、門徒推進員の具体的な役割や願いを明示するため、「門徒推進員という生き方【理念】」を作成いたしました。この内容の意図するところが広く宗門内に周知されることを願います。

【門徒推進員とは】

阿弥陀如来は、私たち生きとし生けるすべてのものをお浄土に生まれさせ仏に成らせて、本当のしあわせと安らぎを与えたいとの願いを建て、その願いを成就して、今「南無阿弥陀仏」の名号となって私に届いています。

そして、阿弥陀如来は、あらゆるいのちは、あるがまま等しく尊いことを知らせるため、お浄土を私たちのめざすべき世界と示し、はたらきつづけてくださっています。

その願いとはたらきを聞きつつお浄土をめざしてお念仏申して生き、阿弥陀如来の願いを私の願いとして生きる人を念仏者といいます。その人を、親鸞聖人のみ教えを仰ぐ「門徒（同じ門下の徒^{ともがら}）」といいます。

阿弥陀如来の願いとはたらきに出遇った私たち念仏者は、社会にはさまざまな問題があることや、私たちの教団が差別をし、戦争に協力してきた負の歴史の事実から、阿弥陀如来の願いの通りにはなっていない現実気づかされます。

それらの現実を他人事とせず、私たちの社会や教団が阿弥陀如来の願いにかなうものであるように、み教えに問い、聞き、語り、共に育ちあいながら、解決し克服する歩みが念仏者という生き方です。

「連研」を受講し終えて「中央教修」を修了して、自らの生き方の中心となるみ教えが明らかになり、阿弥陀如来のお心を私の「ものさし」（価値判断基準）とし、それぞれが自覚と主体性をもって歩み続ける念仏者を門徒推進員といいます。

【門徒推進員として】

門徒推進員は、生涯念仏者の自覚をもって寺院、家庭、職場、及び地域などで、み教えに基づいた生活（生き方）を続けます。

さらに、寺院・組・教区・特区・開教区（開教地）の門信徒・僧侶・寺族とともに、教団の運動の推進にあたります。

<2023(令和5)年6月30日策定>